

2010年度プロジェクト科目秋学期科目について追加募集します。

プロジェクト科目では、下記の秋学期科目について受講生の追加募集をいたします。希望する学生は必ず登録志願票に必要事項を記入し、先行登録期間内に今出川校地教務課へ提出してください。

対象テーマ	受付期間	選考結果発表
京都紹介Web2.0プロジェクト	2010年9月15日(水)～9月21日(火) 事務室開室時間 ※最終日は午前11時30分で受付終了	2010年9月22日(水) 午前10時00分～

詳細は、下記プロジェクト科目ホームページおよび今出川・京田辺両校地の掲示板をご参照ください。
シラバス・講義概要はWEBで検索できます。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
 テーマ一覧 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/>
 ブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/> シラバス・講義概要検索 <http://syllabus.doshisha.ac.jp>

2011年度プロジェクト科目を公募します。

同志社大学は、従来の教室での座学中心の授業形態とは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を基本とする、授業科目「プロジェクト科目」を2006年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は、地域社会や企業の方々に講師をお願いし、地域社会と企業がもつ「教育力」を大学の正規の教育課程の中に導入することによって、学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力など、いわば学生の総合的人間力を養成することを目的としています。教員が一方的に知識を伝授する座学の講義スタイルとは異なり、学生自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動するという、実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えて共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

2011年度も、本学専任教員とともに「プロジェクト科目」をご担当いただき、学生の指導・教育の一翼を担っていただける企業・団体(地方自治体等を含む)・個人の方を募集いたします。

詳細および応募書類については、下記プロジェクト科目ホームページにてご確認ください。
たくさんのご応募をお待ちしております。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
 テーマ募集 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/boshu.php>

締切日	提出先
2010年10月8日(金) 必着	[今出川校地] 同志社大学 教務部教務課教務係 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 [京田辺校地] 同志社大学 教務事務センター京田辺学務課学務共通係 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅郡谷1-3

プロジェクトテーマの一例(2010年度採用テーマより抜粋)

- 京都の伝統織物の情報発信プロジェクト
- 夜間中学を社会に発信しよう!夜間中学を知っていますか?
- 映像の力・若者たちの見た京都
- 環境教育教材作成プロジェクト - 環境マインドを持った次世代リーダーの育成
- 「同志社山手」地区におけるまちづくりデザイン提案
- F1をつくろう! (2010JSAE学生フォーミュラ大会出場を目指して)

記事募集のお知らせ

PBL推進支援センター通信では、同志社大学が取り組んでいるPBLの活動を中心に、他大学で展開されているPBLの事例紹介なども含め、発信していきます。実際に担当されている教職員や受講生、卒業生の皆さんからも、記事や情報を募集します。PBLについて、「こんな取り組みをしています!」「イベントを開催します!」といった記事や「〇〇大学でこんな科目があります」といった他大学の事例などの情報も是非、事務局までお寄せください。

Project
Based -
Learning

問合せ先
同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 教務課内
Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp
ホームページ
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

Vol.2



中村 尚五 氏 (PBL推進支援センター外部評価委員
東京電機大学情報環境学部教授)

「PBL推進支援センターに期待すること」

飯田 周作 氏 (専修大学ネットワーク情報学部教授)

「PBLの姿形」

活動報告

- 2010年度プロジェクト科目「学生担当者説明会」
- 2010年度第1回PBL推進協議会
- 2010年度大学間合同成果報告会
- 2010年度第1回プロジェクト・リテラシー講習会
- 2010年度第1回シンポジウム
- 2010年度プロジェクト科目「春学期懇談会」
- 2010年度プロジェクト科目「春学期成果報告会」

- 卒業生からのメッセージ / 高崎 扶美子さん (2007年卒)
- 山田センター長のつぶやき

2010年度プロジェクト科目秋学期追加募集のお知らせ
 2011年度プロジェクト科目公募のお知らせ
 記事募集のご案内



中村 尚五 氏

(PBL推進支援センター外部評価委員 東京電機大学情報環境学部教授)

「PBL推進支援センターに期待すること」

日本に限らず、先進国の教育の現場では、しばしば学生の学習意欲の低下が問題になっています。そのような状況が続く中で、それに対する打開策の検討が行われています。たとえば、単位の実質化の観点から出席率の向上に対する方策、授業時間数の確保などが行われ、それらの数値は明らかに向上しています。しかし、某大学の研究調査によると、それらの数値上の向上は学生の学習意欲につながっていないという調査結果が浮かび上がっていると新聞紙上に報告されています。このような状況の中で社会が求める学士力として、教養、専門基礎力、社会人基礎力が現在の学生に不足しているということが指摘されています。少子化と社会の不透明化のような様々な状況を抱え、多くの教育機関が学生・生徒の質の確保を満すべく努力しています。

多様化した社会状況において多様化した学生、生徒を教育し、その質を確保する画一的な教育が存在するとは思えないことに教育に関わる多くが困惑しつつ、問題解決に向けてそれぞれの努力を続けています。PBL型教育は教育のすべてとは言えないと思いますが、ある部分たとえば社会人基礎力の醸成とか課題発見・解決力の育成とされているような部分に対しては、従来型の教育手法では解決が困難であったことへの突破口になるのではないかと考えられ始めています。同志社大学では早くからこのPBL教育に関する新しい取り組みを開始し、地域と学生が協働する形で課題解決型トレーニングを実施しています。教員はアドバイザーとして支援するのみに留め、学生の主体性を引き出すことに重きを置いていると伺っています。

学年の枠を外してチームを組んで課題解決に取り組む活動は大学の座学では得られない貴重な体験を可能にしていると思われれます。

全国の多くの大学で形式は異なりますが、PBL型教育が行われ、いくつかの特徴的な事例も報告されつつあります。しかし、それらの多くが熱心な教員グループの活動であって、全学的あるいは学部的に組織された形式で継続的に行われている例はそれほど多くないようです。同志社大学のPBL推進協議会は、PBL型教育の効果がどのようなものであって、それが教育現場にどのように使われると良いか等を検討し、将来的には多くの教育機関にそのような検討会に参加していただき、PBL型教育の種々の方式を提案し、それらを多くの教育機関が活用できるレベルに纏めることができると言うことで地道な活動を続けて参りました。多くの大学等が興味を示すものの、単発的な興味に終わる場合も多いことが現実でした。このような折に、「PBL推進支援センター」を組織され、積極的にPBL型教育の活用を広める活動を開始されたことを大変有難く思っています。これからの「PBL推進支援センター」に期待することは、当初の目標であった日本の多くの教育機関にPBL型教育の有効性を実感・実践していただけるような全国規模の取組を続けて頂きたいということです。まだ、我々が気づいていないことがあるかも知れません。そのような事例が増えれば増えるほどこれから行おうとする活動は多くの方々から注目を浴び、やがては欠かせない教育手法として全国規模で実践されることが期待されます。

専修大学ネットワーク情報学部は、2010年度でようやく創立10周年を迎えることができました。我々は、学部創立当初より「プロジェクト」という科目を学部教育の核として3年次に配置し、全学生・全教員がこれに関わるような教育を進めてきました。しかし、この科目は見る者によって様々に姿形を変え、どのような方法論が、仕掛けが、枠組みが、この科目の理想型であるのか、10年経った今でもなかなか定めがたいというのが私の率直な感想です。恐らく、本学部の教員全員の感想でもあらうと思います。しかし同時に、この10年間、この科目を諦めようという議論は一度もありませんでした。これは、この姿形のとらえ切れない科目に、他の科目には代えがたい教育力を皆が感じてきた証拠であらうと思います。

我々は、プロジェクトという科目をスタートするにあたって、以下のような性格付けを行ないました。

1. 学生・教員から提案された多様なアイデアに基づいて、問題発見・テーマ設定を行い、[創造性、問題解決型]
2. 調査、分析から実践、評価、報告に至るスケジュールを設定し、[総合的な能力の開発]
3. 諸学術の理論やテクニックを活用して、[横断的な知識の再編成]
4. 主として共同作業によって[情報の共有・活用とコミュニケーション]
5. 調査や研究、作品制作を行い発表する。[成果物の公開]

この5カ条は、いわば我々のプロジェクト教育憲章です。この憲章を定めた時から、この科目が持つ非常に重要な性質が幾つか生まれました。学生もテーマを提案できること。これは、学生と教員が同じ土俵に立って考え

るということです。大学が知識を探求する者の集合体であるという原点に立ち返れば当然のことではあります。学生は改めてこのことを意識することと思いません。またプロジェクトという科目は、「諸学術の理論やテクニックを活用して」行うものであり学術的でなければならないという点も、これまた当然とはいえ大学のプロジェクトとしては重要な性質です。

これまで7年間分で200弱のプロジェクトが遂行され、現在も25テーマのプロジェクトが進行中です。それらはどれも個性的で、よくもこれ程に違いが出るものだと感心する程です。しかし同時に、どれをとってもネットワーク情報学部らしさが現れています。ちょっと背伸びをしたくて、新しもの好きで、しかしテーマはほのほのとしていてどこか間が抜けたところがある(学生諸君、これは決して君達をけなしているわけではありませんよ。うまい表現が見つけられず申し訳ない)。実行スタイルは、あまりガツガツと先を急がず協調性を重んじる。その姿形は、間違いなく大学生らしい姿です。

PBLはその名前の響きから少々エキセントリックな印象がありますが、決して奇を衒った教育法ではありません。むしろこれまで大学が蓄積してきた教育力をうまく引き出す科目です。そのためには、企業が営利目的に行うプロジェクトとは一線を画す大学らしさがなければならないと考えます。プロジェクトとは、目的と期間そしてチームが設定された活動単位ですが、大学のプロジェクトにはその裏に真の「目的」が設定されていなければなりません。それぞれの大学が持つ使命に従ってPBLを推進していけば、その姿形はしだいにはっきりしたものになってくるはずであると信じます。



飯田 周作 氏

(専修大学ネットワーク情報学部教授)

「PBLの姿形」